

# KSKR だいかれん

公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会(大家連)

## 重点課題について (中間報告)

会長 倉町 公之

私たちは、精神障害者に対する福祉が、大きく立ち遅れていることから、重度障害者医療費助成と公共交通運賃の割引を重点課題として取り組んできました。この2つの課題の現状を見てみようと思いま

### 1. 重度障害者医療費助成制度

昨年4月の改訂により、精神障害者と難病患者が初めてこの制度の対象となりました。しかし多くの問題点を残しています。

○精神障害者からの問題点としては  
・精神保健福祉手帳1級所持者のみ(手帳所持者の11%)を対象としており、大多数の2級は対象外となっている。

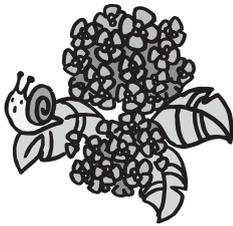
・65歳以上の精神障害者(約1万人)を対象とする「老人医療福祉制度」による助成は、経過措置(3年間)後はなくなる。

・入院医療費の助成については、府としては、長期入院者の地域移行を重点的に取り組んでいるので、その推進状況を見てから検討するとされている。

・精神障害者の多くは、年金のみの収入で暮らしており、高齢化した親と同居しているものが多い。また、高齢化に伴う医療費の増大にも苦慮している。

### ○アンケートを実施

以上の問題意識のもと、昨年12月から今年の3月までの間、精神障害者の経済生活の実態(住まいの状況、主な収入など)と医療費の実態(医療の種類、医療費の負担など)にかんするアンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。現在、約860通が集約されています。



精神障害者の暮らしと医療費負担の実態などを分析して、具体的なデータをもとに大阪府や大阪市、大阪府議会や大阪市会へ訴えて行きたいと思っております。

### 2. 公共交通運賃の割引

○これまでの取り組み状況

・交通事業者等への働きかけ(近畿各府県連と) JR西日本、関西大手民営鉄道、京都・大阪・神戸地下鉄、西日本高速道路等への申し入れと意見交換を実施

・大阪府議会、市議会への陳情書の提出

・みんなねっと(全国精神保健福祉会連合会)は、「交通運賃割引推進プロジェクト」により全国運動として取り組んでいる。

・国土交通省、JR各社への申し入れ、国会請願等

### ○最近の状況

・2017年4月から、大手民鉄では初めて西日本鉄道(西鉄)で精神障害者に対する割引が開始された。

・航空各社で、精神障害者への航空運賃割引が開始された。精神保健福祉手帳所持者に対して、本人と介護者1名の割引を行う。等級は問わない。

2018年10月から、日本航空グループ  
2019年1月から、全日本空輸グループ

## 目次

重点課題について(中間報告) 1頁

総会報告・新役員体制 2頁

代表者会議 3頁

連載記事「親亡き後に備える 令和元年度精神保健福祉講座」 4頁

家族会紹介 美原つくし会 5頁

家族の思い 6頁

配偶者・パートナーの集い 7頁

おしゃべりカフェの紹介 8頁

大阪市との意見交換会・当事者の思い 9頁

賛助会費報告・編集後記 10頁

# 定期総会を開催

2019年度定期総会が、5月25日(土)10時から開催されました。

『司会』 山本理事が行いました。

『会長挨拶』

倉町会長が、次の項目について述べました。

○財政状況は厳しい状況が続きますが、電話相談員を初めとする皆さんのご協力と、大口の寄付が2件有ったことも併せて、単年度少し赤字となりました。6月には、事務所も移転して、家賃負担の軽減を少しでも図ることにしています。

○総会で審議の時間が充分取れない場合には、午後の代表者会議の中で活発な議論をお願いしたい。

○来年は大家連の創立50周年を迎えるので、どのように取り組むか、理事会で検討したい。

『来賓あいさつ』

4名の来賓からご挨拶を頂きました。

○大阪府福祉部障がい福祉室

自立支援課黒田課長

(代理：北野総括主査)

○大阪府こころの健康総合センター

地域支援課鹿野課長

○大阪市福祉局障がい者施策部

障がい福祉課内村課長

(代理：山本課長代理)

○大阪市こころの健康センター

精神保健医療内田担当課長

『出席者数の確認』

会員総数40中出席が20、欠席19、

連絡なし1、委任状受理12、傍聴8名  
『議長選出』  
はあぶ東住吉の大野会長が選任されました。

『議案審議』

○第1号議案 2018年度 事業報告  
議案書に基づき会長が説明、会場から質問なし。

○第2号議案 2018年度 決算報告

○第3号議案 2018年度 監査報告  
議案書に基づき、堀田監事が説明、会場から次の意見が出された。

(意見等) 大口寄付があったからまだ良かったが、無かつたら赤字で、今後が心配だ。

○第4号議案 2019年度 事業計画案  
(意見等) 府議会、市議会への要望が、聞き入れてもらえていない。回答に大きな不満がある。もっと強く、繰り返し、積極的に、取り組んで、強気に要望して欲しい。

(会長から) もっと、議会へ行かないとダメだ。代表者会議でも、議論したい。家族会からも、市町村議会へ働きかけをして欲しい。

(意見等) 医療費助成は、市町村条例を変えていかないとダメだ。大家連から家族会を通しての働きかけをもっとして欲しい。

(会長から) 集約中のアンケート調査結果などを活用して、府、市への働きかけをして行きたい。

(意見等) 大阪府、市へ出された要望事項と回答書の明確な違い、相違点をホームページ上で、公開して掲載して欲しい。

○第5号議案 2019年度 予算案  
(意見等) 現在の1階家賃と、4階へ移転後

の家賃との差額はいかほどか？  
(回答) だいたい、4割程度の節約か。

○第6号議案 新役員体制  
議案書に基づき会長が説明、会場から質問なし。

第1号から第6号議案とも、賛成30(内委任状12)で可決されました。

2019年(令和元年) 度役員体制

理事(会 長) 倉町公之 (高槻明星会) 重任  
理事(副会長) 奥村 勲 (みつわ会) 重任  
理事(副会長) 大野素子 (はあぶ東住吉) 新任  
理事 木村瑛子 (東成家族会) 重任  
理事 角口通子 (池田てしま会) 重任  
理事 藪地悦夫 (美原つくし会) 重任  
監事 奥野 保 (茨木家族交流会) 重任  
監事 堀田久雄 (堀田税理士事務所) 重任  
顧問 遠塚谷富美子  
相談役 小出保廣

理事退任 (元堺市精神保健福祉センター次長)  
理事退任 山本美世子 (まつしの会)  
理事退任 中井良子 (乃ぎく会)  
相談役退任 大野素子 (はあぶ東住吉)

今回、精神保健福祉業務を長年務められた小出さんに、相談役に就任していただきました。山本美世子さん、中井良子さん理事ご苦勞様でした。木村瑛子さん副会長ご苦勞様でした。  
(倉町公之)



## 2019年度(令和元年) 第1回代表者会議

5月25日総会終了後、家族会代表者会議が開催され、意見交換を行いました。会長挨拶の後、遠塚谷顧問の「親亡き後ではなく今、リアルに親亡き後を再現して見よう」「病気の家族を引き込んで、今から色々なサービスと取り組んで行く方が良いと思う。今から外部と接触する方が良い」などのお話がありました。

家族会員、大家連役員31名が出席しました。

### 意見交換会

奥村勲副会長の司会のもと、新年度の事業取り組みについて、精神福祉講座に新たに地区別、7圏域で開く講座の予算がつく事になった事。その詳細な扱い方の説明と質疑がありました。また、福祉講座に7回以上出席された方には大阪府から終了証が交付される事になりました。各講座には、夫々、地区担当理事が選任されるので、詳細についての打ち合わせは、担当理事を通じて大家連へ報告する事となります。

### 電話相談事業について

相談件数は、昨年より増加しています。特に当事者からの相談が、右肩上がりが増えており、相談員数がさらに不足です。

会員の中から、一人でも多く応援して下さい。

### 啓発事業について

だいかれん誌の次回原稿に連載記事で、「親亡き後」の連載記事が欲しいので投稿して下さい。

### 要望活動について

現在進行中のアンケート調査(約、860件)

の解析結果に基づき、大阪府、市とか、議会への働きかけ、要望につなげて、行きたいと考えております。会員、2,3人からの発言で、アンケート調査を見て高齢化と共に、精神科以外の診療にかかる事が大変増えている

事がわかります。内科、歯科、眼科等、医療費負担に耐えきれず、治療放棄が多く見られます。国への働きかけ、全国区レベルの働きかけが、もつと、もつと重要で必要です。消費税増税分も医療費に！大家連は、みんなねつとと組んで、国への働きかけを強めて欲しいです。会場から、医療費助成は、都道府県で取り上げて欲しい。国と市町村に働き掛けして欲しいとの意見が出ました。アンケート調査を根拠にこれらの取り組みを強化して欲しい。交通費より医療費助成の方をもつと取り上げて欲しい、などの意見が出ました。

### 家族会の現状と課題フリートークキング

親亡き後の事が最大の心配事だ。もつとこの意見はでないのか。常に希望を語る家族会にしたい。一方がこけると皆こける。家を留守にして一人にする↓親と子と離れる取り組み。社会資源とつながっていない人をどうするか？ 親あるうちにうまく行かなかつたら、親亡き後にどうするかを考える。いずれは一人立ちさせて行く事。かならずどこかへつながりを持っておく事。引きこもっていて社会



資源と繋がっていない人はどうすればよいか？趣味など、出掛ける事を考える。医療を中断している人をどうするか？私が死んだら、孤独死するね！グループホームと老人ホーム一体型の施設があると入りたい。子供と家族が離れる事を考えた方が良い。親が思うほど、子供は親の事を考えていない。いや、子供が親を心配してくれている。退院したいが、家族が退院を望まなければ退院出来ないケースがあり、どうすればよいか？家族会が、岸和田・貝塚の2市にまたがっている。市町村への取り組みは、どうすればよいか？誓願書と陳情書の違いについて、アドバイスが欲しい。など多数ありました。



会長より参考資料の説明がありました。

○平成31年3月19日、大阪府障がい者施策推進協議会が開催されました。その提出資料の中から、「寝屋川事件について大阪府の各部門が取り組んできたもの」を「抜粋してまとめたもの」を配布しました。

○「旧優生保護法による優生手術などを受けた方へ」の文書

平成31年4月24日に、「旧優生保護法一時金支給法」が成立しました。

これについて請求手続きや、問い合わせ窓口等について大阪府から説明資料が出されました。

(藪地悦夫)

## 親亡き後に備える

大家連精神保健福祉講座(特別編2)に参加して

今回は、次の4ヶ所のグループプホームの紹介でしたが、各々事前連絡すれば、見学は可能です。

- ◎ 特定非営利活動法人ひこうせん
- ◎ NPO法人サラダ倶楽部サボテンハウス
- ◎ 社会福祉法人そよ風のんき亭
- ◎ 住宅型有料老人ホームライフアート四條畷

親なき後当事者は、どんな所で、どのような生活を送るのだろうか？ 親ある今、当事者と充分話し合い、一歩踏み出せたらあとの思いを参加者からお聞きしました。

☆タイトルが「グループプホーム等立ち上げのための勉強会」となっていたので、自分には直接関係が無いと思っていた。しかしだいかれん誌(12/15発行)を見ると実際はそのような内容でない事が分かり、2回目の講座に参加した。

☆グループプホームについてのリアルな情報をゲットすることが出来て良かった。

☆実際にグループプホームに入所したいと思ってもすぐには入れない。だからもし空があったら少々の事は、我慢して入ることになるだろう。施設に自分を合わせることになる。自分に合った施設を選ぶのではなく、需要と供給の関係で仕方がないかもしれないが、普通にアパートを探すようなわけにはいかないかなあ。

☆グループプホームに入ったら、毎日どこか作業所やデイケアにいかなければならないかと思っていたが、最近、日中サービスマン支援型のグループプホームもできてきたとのこと。

☆うちの子は、医療拒否服薬拒否なのでグループプホームに入れるか心配だったが、「通院服薬が難しく入居を断る事はない」と言われたので少し安心。また訪問看護を利用し通院服薬指導してもらおうということも本人が納得するならOKという所もあった。

☆いつかは一人で暮らさなければならぬので、親が元気なうちに本人に合った場所を探しておくたいし、生活の様子も見ておきたい。部屋には鍵はあるそうです。

☆公衆電話があれば、スマホや携帯電話を持たせなくても済むから有難いが、世の流れ、避けては通れないのでは。

☆支援員の人が少なく、グループプホームが開けないとか、精神の支援はなかなか難しいだろう。

☆精神の場合、長期入院と言うこともあり得る。退院したときは、どうなる？ 部屋代払ってあれば退所しなくてもよいとのこと。☆府営・市営住宅にグループプホームを開設できるよう、精神障害者の入居枠の確保が希望。

☆自分の住む、地域のグループプホームについて知りたい。

(茨木O、池田K)

### グループプホーム検討会に出席して

枚方わかちあう会 久保見 誠  
大家連では、昨年度2回のグループプホーム(以下GHと略す)検討会が開かれました。

この検討会、またわたしが以前から関わりのあるGH運営者や、そこで世話人として働く人たちが、また当事者などから知り得たGH立ち上げ、運営について思うところを記したいと思います。

検討会では、30年以上GH運営に携わって

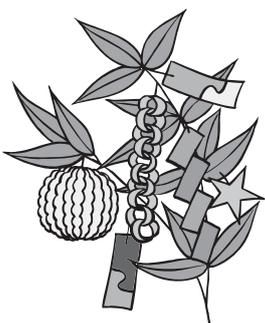
「これの方が、「親亡き後は既に始まっている」とし、共依存関係を速やかに解消する事が当事者および家族にとって大切と力説しておられたのが印象的でした。つまり家族はそれぞれが自立し、また当然の事として当事者も自立し、あるいは家を離れる事が大切とのこと。

そのためには、まず当事者が「毎日をどのように過ごすか」ということが課題となります。就労や就学が望ましいのですが、状態によって病院で作業療法を受けたり、デイに通ったり、あるいは就労支援の作業所を利用しておられる方もいるでしょう。

GHは、これらの利用者が、昼間のみならず、夜も過ごせる場を確保しようとのねらいがあります。既存のGH運営も、他の活動の延長上に位置しており、世話人確保の観点からこのような昼間の居場所と夜間の居場所のセットで提供されることが必要です。

またGHでも運営形態により異なりますが、他の利用者である当事者や、世話人など複数の人と日々接することが、「人薬」の役割を果たすのだと思います。実際、検討会においても当事者が、ピアサポーターとして意外な能力を発揮する事が報告されています。これはオープンダイアログにおいて、ピアサポーターが大きな役割を果たしているのと軌を一にするものと思われれます。

最後に今後、大家連としては、他の都道府県とのより広域的な連携のうえ、事例を検討し、昼夜安心して過ごせる当事者の居場所創りを早急に目指すべきと考えます。



## 2019年度 大家連精神保健福祉講座

| 実施日時                  | テーマ                           | 講師所属                                     | 場所  |
|-----------------------|-------------------------------|--|---|
| ① 6月29日(土)<br>13:30～  | 地域福祉の現状と取組み                   | 堺市障害フォーラム代表<br>中内福成氏                     | アネックスパル法円坂<br>6階12号室  |
| ② 7月13日(土)<br>13:30～  | 身体拘束を考える                      | 杏林大学教授<br>長谷川利夫氏                         | アネックスパル法円坂<br>6階12号室  |
| ③ 8月3日(土)<br>13:30～   | 心の病とはなにか<br>～物質と物質でないもの～      | 東京都医学総合研究所<br>病院等連携研究センター<br>センター長 糸川昌成氏 | エルおおさか<br>6階大会議室  |
| ④ 8月24日(土)<br>13:30～  | 障害年金<br>家族のための障害<br>年金受給マニュアル | 名古屋市精神障害者家族会連合会<br>堀場洋二氏 他1名             | アネックスパル法円坂<br>6階12号室  |
| ⑤ 9月14日(土)<br>13:30～  | オープンダイアログについて                 | 兵庫県立大学准教授<br>川田美和氏                       | アネックスパル法円坂<br>6階12号室  |
| ⑥ 10月26日(土)<br>13:30～ | 成年後見制度                        | 司法書士<br>藤井博章氏                            | アネックスパル法円坂<br>3階1号室   |
| ⑦ 11月30日(土)<br>13:30～ | メリデン版訪問家族支援                   | 京都ACT-K精神科医<br>五十嵐達夫氏                    | アネックスパル法円坂<br>6階12号室  |
| ⑧ 12月7日(土)<br>13:30～  | お薬相談                          | 大阪府病院薬剤師会<br>薬剤師6名予定                     | アネックスパル法円坂<br>6階11・12号室   |
| ⑨ 1月25日(土)<br>13:30～  | アウトリーチを考える                    | 豊岡保健所長<br>柳尚夫                            | アネックスパル法円坂<br>6階12号室  |
| ⑩ 圏域保健講座<br>調整中       | 圏域ごとにテーマ設定                    |  | 豊能地域<br>北摂地域<br>大阪市内<br>北河内地域<br>南河内地域<br>堺・泉州地域<br>東大阪・八尾地域<br>代表者会議 |

# 家族会紹介

## 「美原つくし会」が面白い

美原つくし会 世話人 藪地悦夫

堺市内在住の私は、現在、美原つくし会に所属しています。家族会には、夫々、誕生したいきさつによって、特徴があると思います。美原つくし会は、平成2年(1990)近所の精神障害者を持つ家族さんが集まって、自分の子供たちの作業所や、子供たちの居場所を作ろうと、呼びかけたのが、始まりだと思っています。先輩の方々が、バザーを開いたり、資金集めに奔走されて、それはそれは大変な苦労の結果、作業所が出来、居場所が出来て、現在に至ったと聞いています。

家族会が誕生して、30年経った今、活動する人員も高齢化が進み、経験豊富な方々ばかりです。だから例会で悩み事を相談しても、先輩の経験談で、ほとんどが解決出来ます。設立時の基本理念は、しっかりと受け継がれていて、安心して何でも話せる会だと思っています。

1月26日(土)サニークフェの前の広場で、家族会が立ち上げた、NPO法人「えん」の主催で「ふれあい餅つき大会」が開催されました。第10回目、10年続く行事です。家族会の有志が参加して手伝



いました。「障害のある人、ない人の垣根をなくし、ひとにやさしいつながりづくり、ひとづくり、まちづくり」がテーマでした。近所の子供さんたちがたくさん来て、かわるがわる杵を振り上げました。2歳ぐらいのお子さんがお母さんと一緒に重い杵を精一杯持ち上げる姿に微笑まずにはおられません。あんなにきなこ、そして、古代米入りのぜんざいをみんなで食べました。古代米の餅もありました。みんなひとつになった、ひとときがありました。地域に、しっかりと溶け込んだ「よしよ! よいしょ!」の掛け声が冬の晴れ間に響きました。

家族会は、

- ①面白かった、費やした時間が有意義だったと思えること。
- ②日々の悩みを吐き出して、すっきり出来たと感じられること。
- ③よし、また明日からがんばろうと思えること。
- ④極力、経済的な負担は求めないこと。

この大原則が守れないと、継続して行かないと思います。

「家族会って、どんな集まりだろう?」

興味本位で、参加しても、「こんなものか」で、終わってしまったら、次回からは出席しません。参加する事が面白く、かつ継続出席の努力をしてこそ、次の段階へ進めます。それは、自分には、世の中を動かすほどの力はないけれど、ちよつびり、世の中に役立つことが出来たら、良いのになあ、と思います。精神障害者手帳を持った人は、美原区で399名、東区で760名もあると聞きました。もつと、もつと、気軽に、そして悩みが共有出来る仲間が、自宅から一歩外へ出て、何でも話せる気楽さと雰囲気が生まれる事が理想だと思います。この病気の特徴的な「昔はこうだった」「昔は良かった」ばかりの話ではなく「明日はこんな楽しみ、希望がある!」という、明るい方へ元気の生まれる方向づけが出来たら、いいのになあ、と思っています。

美原つくし会は、こんな楽しい家族会です。

# 家族の恩い

北摂地区 みちこ

娘は四十八才、三十一年前に発病しました。高校卒業時に短大へ行けばいいじめに会うだろうと心配して就職しました。正社員で四年間、アルバイトでは五社で働きましたが長続きしませんでした。勤めをやめてからは朝寝、昼寝、夜寝、といくら寝てもボーッとする状態が何年も続きましたが服薬は守っていました。

二度の入院を経て少しずつ落ちついて来ました。先生からは三十代になれば症状が安定して良くなりますと言われて娘はその言葉信じて時を待っていたようです。市内の体育館で行なわれるスポーツ教室に通い始めました。健康体操、ソフトエアロ、太極拳等、体調に合わせて行き、体力もついてきました。ヘルパーの資格を取ったり、府職業訓練センターの障害者パソコン講座を見つけて港区へ通い受講しました。

少しはパソコンを打てるようになって、障害者事業団が支援しているお店に売子とパソコン入力という仕事をさせてもらいましたが、一年四ヶ月でパソコン入力がレベルアップしてきて本人の実力が伴わず、「できません」とはつきり断ることもできないで辞めました。その後B型事業所で三年間就労しましたがそれも長続きはせず今に至っています。働けば働く程身体はガタガタになり整骨院等治療費の方が高くなっていました。これ以上働けば身体を壊す、病気も重くなると考えて働くのをきっぱりあきらめて、障害年金の入る中で

出ずるを制すとする慎ましい生活をしていきます。自分は寛解の状態でも就労はしない平穩無事な生活が三年程続いたでしょうか。

十七年振りに入院という事態がおこりました。昨年四月に突然異状がおきました。不眠状態が三日続き、大声を出す、警察に電話をしたり暴れたりでやっと入院にこぎつけました。今までは「双極性障害」であったのが「非定型精神病」と診断されました。

妄想や幻覚症状がある。分裂性言語症があるしこれの例として面会に行つて話をすると「Aさんがお母さんの事を嫌っているのを知っているか」「壁のコンセントから私にイヤガラセや死ぬ死ぬというのが聞こえてくるのでコンセントを何度も蹴り壊したら声が少なくなつた」「浴室で照明器具の中に隠しカメラが組み込んであつて私の裸を写してインターネットで公開されている」と話します。入院は五ヶ月に及び退院後八ヶ月になる今でも浴室の照明は点灯しないで洗面所の化粧台の蛍光灯の僅かな明りで入浴しています。

非定型精神病の発病は急激で周期性があり予後は良く最終的には病前の機能レベルまでおよそ回復すると書かれています。周期性があると云うのが気になりますが親としてできることを考えてみます。

①貴女の居場所はここにある



②貴女がいてくれるから家族も安心していられる

③若い貴女を頼りにしている

④家族で仲良く暮らしていけるように皆で努力しあう

⑤話したい事があればお互いに何んでも話をする

という事を暗黙のうちに認めあっています。御報告したい事があります。入院した副産物です。というのはやさしくなつた事です。

「今迄の私は親に逆らつて心を閉ざしていたけれど、私が心を開き助け合つて生活しているのが一番良いと分かつた」と話してくれたのです。先生、看護士さん、患者と接して人をよく観察できたのでしょうか。人との係わり方を考えていたようです。本人が言うには「この入院の5ヶ月間は家でボーとしていたら気づいていないいろんな事が体験でき、考え方も変り貴重なかけがえのないもの」だったようです。入院中、御指導下さった医師、看護士、その他病院でお世話になつた皆様に、娘にこのような気づきを与えて下さつた事に感謝申し上げます。「この頃お母さんやさしくなつたでしょ」と言つて同意を求めます。「ほんまや、やさしくなつたなあ」と返事。本当はこちらから先にありがとうと言うのを先に越されてしまいました。親はほめるのがヘタです。「ちよつとこれを手伝つて」と甘えれば「今はしんどいからしない」とはつきり断つてくれます。やはり会話がないと寂しいですね。我家には娘がいて何かと話してくれるので助かります。あと十年先には親は居ないかも知れませんが少しづつでも娘が生き方を身につけていってくれますように祈っています。

## 配偶者・パートナーの集い

「配偶者・パートナーの集い」の開催を始めてから、1年半が立ちました。

始めるきっかけは、家族会は親の立場の方がほとんどで話の中に入れない、ということを知っていました。たまたま同じ家族会に配偶者の立場の方がいて、大阪で配偶者・パートナーの集いをしたい、ということがきっかけで、大家連で「配偶者・パートナーの集い」を立ち上げるようになりました。

当初は集まるのかと不安でしたが、大家連のホームページ、朝日新聞で取り上げていただいたこともあり、多くの参加がありました。この間、奇数月の第2日曜日に開催してきましたが、ホームページを見て参加の問い合わせがあり、毎回新しい方が来てくださいます。

配偶者が病氣理解がない場合の大変さの中の悩みを話せる場がない。実際相手に病氣があり、病氣理解とともにどう対応したらいいか学びたい、と結婚前の若い方の前向きな姿勢に、こちらの方が学んでいます。

参加者の多くは、家族会会員以外の方です。どこにも話すことができず、悩み、場を求めてインターネットで探しまくりに、この集いにたどり着き、参加できますか？と連絡くださいます。家族会の存在を知らない家族が、大家連を知り、共通の悩みを話すことで、少しでも気持ちが悪くすることを願うと同時に、家族会に加入していただけたらと思っています。この集いを大事に続けていきたいと考えています。

(文責 木村瑛子)

## おしゃべりカフェについて

開催責任者 山本 勝子

大家連の活動にご協力厚くお礼申しあげます。「おしゃべりカフェ」は平成29年12月に立ち上げ、2カ月に1回、現在9回開催しております。認知度が少しづつあがり、家族や当事者を含め、毎回13〜14名の参加者があります。開催の趣旨として会員や会員以外の人だけでなくでも気軽に参加できることを第一としております。内容に関しては参加者から希望をお聞きし、できるだけ希望の内容にそって、参加者の経験や情報交換などしながら参加者やその家族の生活が良い方向に向かうよう議論しております。

しかしながら、参加者には重い課題を抱えておられる方がほとんどですので、希望されるような解決策や方向性を示せないことも

### 精神障害者を持つ方の

## 配偶者・パートナーの集い

家族会は親の立場の方が多いです。そのため、配偶者・兄弟姉妹・子と立場が違つと、話に入れないなどの意見も聞きます。

日時 奇数月の第2日曜日

午後1時半〜3時半

場所 アネックスパール法円坂A棟4階

大家連事務所

申込 不要(気軽に)ご参加ください

多々あります。精神障がい者やその家族が抱える問題は多岐にわたり、かつ複雑ですので、医療、法律、福祉制度、その他多くの問題点について議論を重ねながら深めていきたいと思っております。そのためには継続的に開催することがなによりも重要です。

4月には参加者から希望が多かったグループホームの見学に7名で行ってきました。グループホームを経営する立場からの細かな説明や参加者からの多くの質問にていねいに応えていただきました。当事者やその家族がそれぞれ自立するためには生活の場が一番大切ですので、その選択肢の一つであるグループホームについて理解を深められたと思っております。今後も参加者のニーズに沿って活動を広げていきたいと思っておりますので、多くの方の参加をお待ちしております。

### おしゃべりカフェへのお願い

いろいろな人が気軽に集い、おしゃべりすることを第一としますが、精神福祉に関する制度や法律を自ら学び、考える力を育成することも目指しています。

日時 偶数月の第2日曜日

午後1時半〜4時

場所 アネックスパール法円坂A棟4階

大家連事務所

申込 不要(気軽に)ご参加ください

# 大阪市・大家連

## 意見交換会のレポート

はあぶ東住吉 大野 素子

●日時 2019年1月31日(木)

午後1時30分から午後3時30分

●場所 大阪市役所 地下一階 共通会議室

●参加者 担当部局 20名

大家連 大阪市内家族及び大家連 20名

●内容

要望13項目のなかからあらかじめ5項目を選び、日ごろの私たち家族の暮らしの実際を大阪市担当の方々に聞いていただくことになりました。

△重度障害者医療費助成▽

従来65歳以上の精神障害者には重度障害者と同等に、他科受診の医療一回5000円までの負担とされる制度の廃止が決定したことで、負担が増える辛い思いを涙しながらの切実な発言がありました。「高齢化による財政圧迫で制度は持続できない」との回答には納得できないと会場からのさらなる発言がありました。

△精神科医療▽

①精神科救急医療システム

大阪市内には精神科を持つ総合病院が少なくとも5つあるにもかかわらず、精神科救急受け入れ病院が相変わらずない状態が続いて、遠い府下の病院に振られ困る實際を伝えました。

②他科入院受け入れ

他科の手術入院の際、家族付き添いを条件にされ、高齢な家族への負担が重くなることをお話ししました。

大阪市からはそのような事態で困ったときには「大阪市健康局 保健所

保健医療対策課 医療指導グループ

電話 06-6664710939まで

相談してください。」との回答がありました。

△住まい▽

一人暮らしをするための住まい探しで、障害者年金で暮らしている旨を言うと地域の不動産事業者からは断られ、市営住宅は度重なる落選の挙句、条件の少し悪いことに妥協しての同居になった苦勞を訴えました。

△家族支援▽

体重も減り、病状が悪く、他者の介入を一切拒否している深刻な時に、住まいの区の保健センターの医療につなげる踏み込んだ危機介入支援をお願いしたいと、涙しつつの発言がありました。

△教育▽

不登校となったとき、一人一人への声かけ、訪問、相談など心ある対応が欲しかったと訴えました。



# 当事者の思い

## 「ゆっゆっ会だより」より

詩「大声で叫ぶ」

佐々木邦昭

僕は精神障がい者ですとみんなの前で言うのには、それなりの勇気がいるが太陽にむかって大声で言おう。

◎  
それで差別や偏見にあったとしても精神障がい者だと言う事で自分をとき放ってゆける。

◎  
一時は本当に苦しかったけれど本当にいい先生と薬に出合っただけはもう調子がいいんです。  
さあ、こんな僕を見て下さい。  
さあ、手をつないで一緒に生きてゆきましょう  
バリアフリーの世界に

もし二人の間に垣根があったならとてつもない壁があったとしても、それをうちくदैいて、私とあなたと手をつなごうよ。

## ひとりで悩んでいませんか？

心の病の患者さんを抱えている家族の方  
ひとりで悩んでいないで…

あなたはもう

ひとりぼっちではありません！

同じ家族の立場で

電話相談員があなたの悩みを  
お聞きします。



## 大家連 電話相談室

**☎ 06-6941-5881**

電話相談日

月～金 10:00～15:00

(祝日・お盆・年末年始は休みます)

- ▼総会も無事終了。役員体制も若干の変動はあつたが、ほぼ前年なみの活動を継続する
- ▼消費税アップが今秋に予定される
- ▼社会福祉財源が確保され、活動指針に挙げた施策が少しでも前進するよう期待する
- 「令和」新年度初号である。
- ▼大家連事務所は6月に、1階から4階へ移転の予定です。

(編集委員 奥村)

## 2019年度の賛助会費報告

年会費をいただきました。ありがとうございました。

賛助会費

(1口3千円/年)として

30人分

30口

### (寄附)

大家連へのご支援、大変ありがとうございました。

| 氏名        | 地域    | 寄附      |
|-----------|-------|---------|
| 高橋芳樹      | 寝屋川市  | 5,000円  |
| 山本幸弘      | 住吉区   | 27,000円 |
| 久保見誠      | 交野市   | 10,000円 |
| ユウキクリニック  |       | 10,000円 |
| 仲宗根康江     | 吹田市   | 7,000円  |
| 松林昇       | 東淀川区  | 1,000円  |
| 新阿武山病院    | 高槻市   | 30,000円 |
| 中井良子      | 守口市   | 10,000円 |
| 吉村病院      | 松原市   | 30,000円 |
| 光愛病院      | 高槻市   | 30,000円 |
| 京阪病院      | 守口市   | 30,000円 |
| ユウキクリニック  |       | 10,000円 |
| 青葉丘病院     | 大阪狭山市 | 30,000円 |
| 和泉丘病院     | 和泉市   | 30,000円 |
| 中西クリニック   | 旭区    | 10,000円 |
| 前久保クリニック  | 中央区   | 10,000円 |
| 三家クリニック   | 寝屋川市  | 10,000円 |
| 中畑医院      | 和泉市   | 10,000円 |
| キム診療所     | 東成区   | 10,000円 |
| かわすみクリニック | 鶴見区   | 10,000円 |
| 稲垣診療所     | 岸和田市  | 10,000円 |
| 西前保子      | 柏原市   | 2,000円  |

(平成31年4月1日～令和元年6月5日)

編集後記

2019年度の共同募金配分金 57万円が決定しましたのでお知らせします。

共同募金の寄付による配分金でだいかれん誌の発行が成り立っています。

寄付下さった皆さまに心よりのお礼申し上げます。

又、会員の皆さまには赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします



編集人 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会 会長 倉町 公之  
 連絡先 〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 アネックスパル法円坂 (A棟4階)  
 Tel 06-6941-5797 Fax 06-6945-6135  
 ホームページ daikaren.org だいかれん で検索もできます

振込先 郵便振替 00970-4-72221 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会

定価 1部100円 (大家連家族会費には購読料を含む)

発行人 関西障害者定期刊行物協会  
 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階